

# あなたと博物館

## HIRATSUKA CITY MUSEUM

### '96 5月号

## 開館20周年記念展

平塚市博物館はこの5月で満20周年を迎えました。開館した時にはヨコヨチ歩きだった博物館がようやく成人式を迎えたわけです。初めは余裕のあった収蔵室も、資料があふれるばかりになり、コンピューターには膨大な情報が入力されています。こうした蓄積ができたのも、行事や調査を通じて出会った多くの方々の協力のおかげだと思います。

今回の特別展では、20年間の歩みを紹介するとともに、資料的な価値の大きい、各分野のコレクションを展示します。自分の顔が写った写真がないか、寄贈した資料がないか、ぜひ見に来てください。

#### ●記念シンポジウム

「すべてのまちに博物館を—高まる地域博物館への期待」

日時：5月12日（日）  
午後1時半～4時

場所：博物館講堂  
(入場自由)

パネラー：

小川直之氏（國學院大學助教授）

林 浩二氏（千葉県立中央博物館学芸員）

渡辺保子氏（茅ヶ崎の博物館を考える会）

「博物館があったためにこんな経験ができた・これから博物館にこんな期待をしている・私の住んでいる町にも博物館がほしい・・・」博物館についてのご意見をお持ちの方、ぜひご来場ください。



#### ●特別展図録

「博物館のできるまで」

A4版60ページ。「博物館ものがたり」「博物館のしごと」の2章で、博物館のすべてを紹介。博物館の舞台裏を知りたい人、博物館でどんな情報が手に入るかをつかみたい人、博物館学の勉強をしている人・・・こうした方に必読の本です。



▲開館時にあった展示「地下をのぞこう」（写真の中学生ももう30代なかば・・・）

◀開館ポスター（1976年5月）

☆<イブニングミュージアムの実施> 今年度から、特別展期間中に限り金曜日の閉館時刻を延長し、午後7時まで開館します。したがって、5月3, 10, 17, 24, 31日は7時まで開館します。

# 平塚の考古学の動向 I

## —考古学入門講座に向けて—

■平塚市に最初の考古学のメスが入ったのは明治31（1898）年の万田八重窓横穴墓群の調査です。98年前です。約1世紀にわたる調査（500カ所）の歴史には、その時の社会背景が反映されていますが、それぞれの成果は平塚の歴史を解明していく上で欠くことのできないものばかりです。

調査の歴史には大きな節目があります。一つは博物館準備室が行った昭和48・49年の赤坂遺跡・上ノ入A遺跡・王子ノ台遺跡の3本の学術調査は基本的に最初の集落調査として位置づけられます。一方、昭和48・49年に博物館が実施した市内遺跡分布調査は、従来の遺跡範囲を点から面にとらえたことに大きな評価が与えられます。同時に、遺跡の数は約7倍（250遺跡）に増え、砂丘に多くの遺跡が分布する特徴が確認されたことです。

二つは、伊勢原県道（昭和53年）と129号線（昭和53年）の2つの大きな県道の新設・拡幅工事による産業・生活道路の整備に伴い、急激に調査件数が増えています。

近年の調査成果から、平塚の考古学の動向を時代ごとに紹介します。

### ■旧石器時代（3万年前～約1万2千年前）

相模川左岸での調査事例が多い反面、右岸では伊勢原市・秦野市・大磯町に僅かに認められる程度でした。しかし、権現堂遺跡（平成2年）・王子ノ台西遺跡（平成2年）・原口遺跡（平成4年）で発見され、その存在が明らかになりました。特に、原口遺跡は1万8千年前と1万2千年前の生活の跡や1万4千点の石器が発見され、県西部を代表する遺跡と注目されています。

今後、市内の各台地で発見される可能性が非常に高く、旧石器時代の様相がしだいに明らかになるものと考えます。

### ■縄文時代（約1万2千年前～2300年前）

五領ヶ台貝塚と万田貝塚は全国的に知られており、特に五領ヶ台貝塚は縄文時代中期初頭（5千年前）の「五領ヶ台式土器」を出土した標式遺跡として著名です。昭和49年の日向丘遺跡・上ノ入B遺跡では初めての集落が確認されました。以後、王子ノ台遺跡・御所ヶ谷遺跡・向原遺跡が調査されています。向原遺跡では縄文早期の土器や石器

がまとまって発見されました。

近年では、諏訪前A遺跡・真田大原遺跡・王子ノ台遺跡・原口遺跡・構之内遺跡・山王久保遺跡が調査されています。砂丘に立地した諏訪前A遺跡と構之内遺跡では縄文中期の土器の完形品が出土しています。このことは、すでにこの時代に何らかの形で生活をしていたことを示す、たいへん重要な意義をもっています。

この時代の集落の構成や暮らしを再現するにはまだ情報が不十分かと考えます。

### ■弥生時代（2300年前～1700年前）

王子ノ台遺跡・上ノ入遺跡・中原上宿遺跡・向原遺跡が代表的な遺跡です。特に、王子ノ台遺跡は中期の集落跡として、また方形周溝墓が発見された遺跡として有名です。また、砂州・砂丘に立地する中原上宿遺跡では、初めて集落跡が発見されました。

その後、大原遺跡・坪ノ内遺跡・王子ノ台西遺跡・原口遺跡・出縄遺跡の調査が行われています。大原遺跡では弥生中期の集落跡や畠状（うねじょう）遺構といわれているものが発見され、この時期に農耕（畑作）が行われていることがわかります。坪ノ内遺跡では中期の方形周溝墓が見つかりました。相模川右岸や金目川左岸の砂丘や自然堤防に集落が展開されたことがわかります。原口遺跡では県下最大の規模の方形周溝墓や集落跡が発見されました。出縄遺跡では、なぜこの場所にと考えるほどの狭い傾斜地に集落跡が見つかりました。新しい視点での調査が必要かと思います。



◆縄文中期の集落（岡崎上ノ入B遺跡）◆

プラネタリウム 宮沢賢治生誕100年記念連続投影

「双子の星」 5月11日～6月2日

「よだかの星」 6月15日～7月7日

「銀河鉄道の夜」「セロ弾きのゴーシュ」、「春と修羅」「水滸の朝」などの童話と詩で知られる宮沢賢治は、明治29年8月27日の生まれで、今年はその生誕100年にあたります。賢治は私たちの平塚市と友好都市の関係を結ぶ岩手県花巻の人で、地元花巻市では今、いろいろな催しが企画されているようです。

博物館では平成2年夏の特別展「イーハトーブ花巻—くらしと文化」の一環として童話「双子の星」を、また平成6年には「よだかの星」をプラネタリウム番組として制作・投影しましたが、この両番組を生誕100年の記念として再投影します。土曜日、日曜日の一般投影の中で実施しますので、星空の解説とともに楽しんでください。また、幼稚園、保育園などの幼児団体向けの投影も今年は「双子の星」を実施します。この機会に、ぜひご家族でもご覧下さい。

投影日 土、日曜日 11:00 14:00  
途中入場はできません  
観覧料 100円  
定員 86名  
\*\*両番組とも期間が短いのでご注意下さい。\*\*

「双子の星」より(絵:仲野貴子)



## 博物館の新刊ニュース

今年も新刊が出そろいました

●博物館資料No.45『平塚の道祖神』  
道祖神は市内にいくつあるのか?どこにあるのか?どんな種類があるのか?どんな思いが込められているのか?なぜ、道祖神のまわりに五輪塔の一部が置かれるのか?小正月に火まつりをするのはなぜか?

道祖神一基ごとのデータからドンド焼きまで写真入りで紹介しましたので、この本を読めば、これらの疑問の答や参考になる事例が見つかります。まずは、いつも見かける近所の道祖神がちゃんと載っているか確かめたら、この本を片手に道祖神めぐりに出かけてみましょう。

道祖神の本場といえば、長野県、とくに安曇野が思い浮かびますが、わが相模の国も、こと数と古さにおいては負けていません。なにしろ、日本でいちばん古い双体道祖神はお隣の伊勢原市に寛文4年(1664)のものがあるのですから。また、道祖神のまわりに五輪塔残片などの石を伴っているのが特徴です。

この本をもとに謎の多い道祖神(サイノカミ)の実態に迫ってみましょう。

B5判、64頁。¥650



●平塚市博物館研究報告『自然と文化 第19号』  
～内容～

- ・相模國「国厨家」について—平塚市四之宮所在の稻荷前A遺跡の性格について— (明石新)
- ・平塚市遠藤原遺跡出土の弥生土器について (大島慎一・谷口肇)
- ・感想文集 夏期特別展「44万7,716本の軌跡」—平塚の空襲と戦災によせて— (土井浩)
- ・平塚市土屋地域の鳥類相 (浜口哲一)
- ・神奈川県におけるブユの分布調査 10. 平塚市のブユ相 (斎藤一三)
- ・神奈川県西部の大磯層産出の板鰓類化石 (田中猛・森慎一)
- ・1995年の太陽黒点 (鷹宏道・沢村泰彦)
- ・1995年10月24日の皆既日食観測 (川合慶一・三橋裕之・鷹宏道)  
B5判、90頁。¥900

●『平塚市博物館年報 第19号』

平成6年度の博物館の活動報告。B5判、40頁。¥450

●博物館資料No.44

玩具資料目録II『本間コレクション<木地玩具>』  
おなじみ本間さん蒐集の木地玩具目録。B5判、50頁。  
¥800

## 博物館カレンダー

### 5月の行事予定

1 水	○特別展「開館20周年記念展」<至:6月2日>
5 日	民俗探訪会「須賀の史跡と石仏めぐり」
7 火	地質調査会（館内）
9 木	石仏を調べる会（須賀）
11 土	○漂着物を拾う会 古文書講読会 平塚の空襲と戦災を記録する会
12 日	○特別展記念シンポジウム
15 水	裏打ちの会
18 土	平塚の空襲と戦災を記録する会 地質調査会
19 日	古代遺跡を探す会
23 木	石仏を調べる会（須賀）
24 金	○星を見る会「月と金星を見よう」
25 土	古文書講読会 天体観察会「金星、月を写そう」
26 日	相模川の生き立ちを探る会 「生痕化石」（三浦市毘沙門）
31 金	特別展会期中につき、開館します。

### 6月の行事予定

1 土	○こども観察会「コアジサシを見よう」 (相模川田村付近) ○考古学入門「縄文時代」
2 日	民俗探訪会「八王子道を歩く！」 (平塚新宿～四之宮)
4 火	焼蒸休館<至: 13日(木)>
9 日	相模川の生き立ちを探る会 「煤ヶ谷石の産地」(清川村別所)
13 木	石仏を調べる会(馬入)
15 土	地質調査会(館内) 平塚の空襲と戦災を記録する会 ○考古学入門「弥生時代」 天体観察会「星座を覚えよう」
16 日	古代遺跡を探す会
19 水	裏打ちの会 地質調査会(館内)
22 土	○漂着物を拾う会(平塚海岸) 古文書講読会
23 日	地質調査会(館内)
27 木	石仏を調べる会(新宿)
29 土	○考古学入門「古墳時代」
30 日	開館します

◎は参加自由 ○は申込制 他は会員制

### ●特別展

- 「開館20周年記念展」  
: 5月1日(水)～6月2日(日)  
☆特別展記念シンポジウム  
「すべてのまちに博物館を  
～高まる地域博物館への期待～  
・日時: 5月12日(日) 13:30～16:00  
・会場: 博物館講堂(参加自由)

### ●寄贈品コーナー

- 「自然部門新資料展」  
: 生物・地質・天文の寄贈品の紹介。  
5月1日(水)～6月2日(日)  
「空襲展」: 6月14日(金)～7月18日(木)  
●プラネタリウム一般投影  
「双子の星」: 5月11日(土)～6月2日(日)  
「よだかの星」: 6月15日(土)～7月7日(日)  
土・日曜日の11時と14時に投影。観覧料は100円。

### 考古学入門

- ①6月1日(土): 縄文時代  
②6月15日(土): 弥生時代  
③6月29日(土): 古墳時代  
④7月6日(土): 奈良・平安時代  
時間: 各回とも 14:00～16:00  
会場: 博物館講堂  
定員: 50名  
申込: 往復はがきに住所、氏名、年齢、参加希望の日を記し、博物館「考古学入門」係へ。申込多数の場合は4回すべて出席できる方を優先します。  
〆切: 5月20日(月)

### こども観察会「コアジサシを見よう」

- コアジサシなどの川の野鳥の観察をします。  
日時: 6月1日(土) 14:00～16:30  
場所: 相模川田村付近  
対象: 小中学生と同伴父兄  
申込: 往復ハガキに住所、氏名、年齢を記し、博物館「こども観察会」係へ。  
〆切: 5月20日(月)

### 星を見る会

- 日時: 5月24日(金) 19:00～20:30  
場所: 博物館屋上(1階科学教室集合)  
参加: 自由

### 漂着物を拾う会

- 海岸に打上げられた動植物・人工物を集めて調べます。  
日時: 5月11日(土) 9:30～11:00  
場所: 平塚海岸(花水川橋平塚側ともと記念碑前集合)  
参加: 自由

今月号から、表紙タイトルと奥付の文字を総務部印刷室のお取り計らいにより、カラーでお届けできるようになりました。より一層の紙面の充実を目指したいと思います。

あなたと博物館

21巻2号 還巻231号 03000 発行 平塚市博物館

〒254 平塚市浅間町12-41 TEL:0463(33)5111 FAX:0463(31)3949